

[参考事項]

新技術名： ブドウ「シャインマスカット」の一文字整枝（平成12～19年）

研究場所名 果樹試験場 天王分場
担当者 長澤正士・小野早人

[要約]

「シャインマスカット」は一文字整枝により、ほぼ4年で成園化し、4年生時の10a当たり換算収量は、1200kgである。本品種に対する長梢結束剪定は、花穂の着生が良く若木時の収量が安定する反面、剪定時間が多くかかる。短梢剪定は、剪定時間が短く、収穫果房も長梢結束剪定より大きい。しかし、収量は樹齢の経過とともに安定する。

[ねらい]

本県のブドウ栽培面積のおよそ70%の園地は多雪地帯で、積雪による棚の倒壊を防ぐため、棚面が地上2m以上にあり、作業性が非常に劣っている。また、生産者は、高齢化が進んでおり省力技術への期待が大きい。このため、耐雪性に優れ、省力的な栽培管理が可能な一文字整枝を食味の良い欧州系品種「シャインマスカット」で検討した。

[技術の内容・特徴]

- 1 平成11年春に5.8m×3.0mで1年生苗を植栽し、4年生時には植栽間隔がほぼ埋まった。また、収量も10a換算で1200kg程度となり、成園化した（表1）。
- 2 平成18年春に間伐を行った結果、ターミナルシュートは4m以上伸長し、間伐後、1年で間伐跡は埋った。
- 3 剪定時間（誘引込み）は、10a換算で一文字長梢結束剪定で55時間、一文字短梢剪定では2時間40分であった。
- 4 果実品質は、長梢結束剪定、短梢剪定ともにほぼ同等であるが、短梢剪定の方が果房重については優る傾向にある（表2）。
- 5 シャインマスカットの花穂の着生は、短梢で劣る。特に若木時の過着果および前年花芽分化期の日照不足等の影響が大きい（表3）。したがって、短梢剪定は、若木時に収量は安定しない傾向にあるが（表1）、樹齢を経るとともに安定し、10a当たり1200kg以上の安定生産が可能とである。

[普及対象範囲]

県内ブドウ栽培地域。

[普及・参考上の留意事項]

短梢剪定の場合、花芽分化期の新梢管理を徹底し、若木時の過着果に注意する。

[具体的なデータ等]

表1 樹齢にともなう樹冠の拡大と収量の変化

年次	剪定	樹齢	樹冠面積 (m ²)	幹周 ² (cm)	収穫房数	収穫量 (kg)	10a換算収量 (kg)	平均果房重 (g)
H12	2樹平均	2	6.0	9.1	-	*5.8 ^y	-	-
H13	長梢	3	14.3	13.9	-	-	-	-
	短梢	3	14.8	12.4	-	*13.4	-	-
H14	長梢	4	16.4	16.5	40	20.8	1260	520
	短梢	4	17.1	15.5	30	18.6	1200	620
H15	長梢	5	18.3	19.4	43	20.2	1040	470
	短梢	5	17.1	17.0	13	5.1	300	390
H16	長梢	6	20.2	22.1	55	28.8	1300	520
	短梢	6	15.6	20.6	41	22.4	1090	550
H17	長梢	7	17.7	25.1	51	25.4	1440	500
	短梢	7	20.1	25.2	55	32.3	1610	590
H18	短梢	8	30.3	24.9	86	43.4	1430	510

²幹周は地上20cm、*印は2樹合計

表2 ‘シャインマスカット’の果実品質

年度	せん定	調査房数	果房重 (g)	着粒密度 (粒/cm)	1粒重 (g)	糖度 (%)	酒石酸 (g/dl)
H16	長梢	8	499.7	4.3	11.2	16.8	0.388
H16	短梢	8	515.7	4.3	11.4	16.8	0.328
H17	長梢	10	627.0	4.3	12.7	18.1	0.331
H17	短梢	8	638.7	3.6	13.0	19.2	0.276
H18	短梢	10	584.0	4.8	9.4	18.8	0.217

²満開前にスレプトマイシン200ppm、満開3日後GA25ppm+F10ppm処理

表3 ‘シャインマスカット’の1新梢当りの花穂着生率

年次	剪定	花すい着生新梢率 (%)	前年7月の日照時間 (h)
H14	長梢	75.5	128.1
	短梢	65.2	
H15	長梢	71.7	109.5
	短梢	28.9	
H16	長梢	93.8	132.2
	短梢	91.1	
H17	長梢	94.1	145.2
	短梢	85.4	

²日照時間平年値135.0h(H8~H17)



写真1 長梢結束剪定



写真2 短梢剪定

[発表文献等]